

12月14日 日 13:00—18:00

研究発表 司会=小島見和 (青山学院大学)

都市史学会総会 (会員のみ) 【15:15 開会】

基調講演=ポリスとは何か | 桜井万里子 (東京大学名誉教授) 【16:25 開演】

司会=樺山紘一 (印刷博物館館長・東京大学名誉教授)

※終了後、懇親会を開催予定です。

12月15日 日 10:00—17:30

シンポジウム 歴史のなかの現代都市

趣旨説明=伊藤 毅 (青山学院大学・東京大学名誉教授) / 建築史

報告=北村優季 (青山学院大学) / 日本古代史

河原 温 (放送大学) / 西洋中世史

桜井英治 (東京大学) / 日本中世史

中野隆生 (学習院大学) / 西洋近代史

妹尾達彦 (中央大学) / 東洋史

コメント=池田嘉郎 (東京大学) / 近現代ロシア史

北河大次郎 (文化庁) / 土木史

歴史の なかの 現代都市

われわれがふだん生活し活動している拠点は多くの場合、現代の都市である。現代はつねに進行形として推移していくので、過去との連続／断絶がどのように起きているのかを明らかにすることは難しい。歴史的時代区分として古代、中世、近世、近代については多少の幅があるものの、多くの研究者のあいだで一定の共通認識がすでに定着していると言つてよいが、近代と現代の境目や歴史全体のなかの現代という時代を特定する指標を明示することはきわめて困難である。

今回の都市史学会の大会ではさまざまな時代や地域を専門とする研究者が一堂に会し、みずからの専門領域の研究を通して、現代都市を浮かび上がらせることが目標である。現代都市そのものを論ずるのではなく、それぞれの時代や地域に立脚して歴史のなかから現代都市を逆照射することを試みる。

過去に存在した何らかの都市的要素のなかで現代都市に継承されているもの、あるいは断絶してしまったものを意識化することによって、われわれが現在日々体験しているにもかかわらず、よくわからない現代という時代、あるいは現代都市を考えるひとつのきっかけにしたい。

都市史学会大会 2019 東京

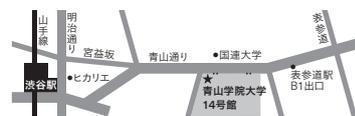
2019年12月14日 土 +15日 日

青山学院大学青山キャンパス 14号館12階大会議室

共催=青山学院大学総合研究所

参加費 (両日共通) = 会員2,500円 / 学生・院生1,000円 / 非会員3,000円 (非会員の方は14日の総会以外は参加可)

お問い合わせ=2019年度都市史学会大会実行委員会 convention2019@suth.jp <http://suth.jp>



青山学院大学青山キャンパス
150-8366 渋谷区渋谷4-4-25
JR山手線 渋谷駅より徒歩10分、東京メトロ銀
座線・千代田線・半蔵門線表参道駅より徒歩5分

 都市史学会
Society of Urban & Territorial History